

自然と調和した住みよい環境をつくる

街路灯整備事業	8,419
定住促進持家住宅建設事業	2,000
斎場増築事業	35,461
町道除排雪	59,220
町道開進9号線交付金事業	27,000
町道南2丁目線交付金事業	62,000
町道幌延1号線凍雪害防止事業	39,835
町道1条線地特事業	50,000
町道幌延下沼線地特事業	39,991
栄町・宮園団地公営住宅補修事業(6棟20戸)	6,872
宮園団地公営住宅整備事業 (1棟12戸建設・3棟12戸解体)	109,688

生き生きとした魅力ある産業をつくる

中山間地域等直接支払事業	107,644
担い手対策事業	1,000
乳牛検定組合、生乳成分検査事業補助	4,528
幌延地区畜産担い手育成総合整備事業	65,556
問寒別地区畜産担い手育成総合整備事業	83,541
酪農ヘルパー利用組合補助	4,500
農業用水道施設改修事業	4,133
森林管理道上幌延線開設事業	53,127
町有林整備事業	12,075
21世紀北の森づくり推進事業	8,639

商工会育成事業	12,067
商業店舗近代化促進事業	10,000
幌延町観光PR促進事業	630

明るく元々なくらしをすすめる

社会福祉協議会活動推進経費	4,452
老人福祉施設管理経費	16,712
老人クラブ活動推進経費	765
幌延福祉会運営費補助	6,825
通所介護用車両購入事業	7,729
保育所管理経費	20,087
予防検診事業	10,100

学ぶところと文化を育てる

情報教育研究推進事業	4,803
小学校管理費	56,857
中学校管理費	22,381
公民館図書購入費	866
総合スポーツ公園維持管理費	14,861

町民参加のまちづくりをすすめる

ホームページリニューアル事業	468
広報誌「ほろのへの窓」発行経費12回	6,331
自治会活動費補助等	1,222

町の家計は大丈夫?

平成16年度の幌延町の決算額は、一般会計、特別会計及び病院事業会計合せて収入が63億7,762万6千円、支出が61億8,251万6千円、翌年度繰越財源額199万1千円、差引1億9,311万9千円でした。

町の各会計予算は、町民の皆さんから納めていただいた税金などのお金を、どのように有効活用して事業を行うかということが大事になります。ただ、収入と支出の差が大きければ良いということではなく、抑えるべきところと使うべきところのバランスが良くなければならないということです。

予算のバランスを見るための物差しが、次の各比率です。幌延町(普通会計)の数字を見てみましょう。

- 経常収支比率 83.7(81.4) 平成16年度の数字です。
- 公債費比率 14.3(13.0) ()内の数字は平成15年度のものです。
- 起債制限比率 7.6(7.2)

経常収支比率

財政構造の弾力性を測定する数字です。町が自由に使えるお金(地方税、地方交付税、地方譲与税など)の中で、人件費や物件費、公債費(借金の返済金)など義務的性格の経常経費が占める割合で、この比率が高いと町独自のいろいろな事業が出来なく

なってしまいます。町村では75%が一応の目安となっていますが、町の数字はそれより高めです。国から交付される地方交付税の削減や、公共施設などの維持管理経費がかさんでいることなどが要因ですが、行財政改革の推進により、効率的な行政運営を図っていきます。

公債費比率

今までの借金のその年度の返済金が公債費です。この公債費が地方税、地方譲与税などの一般財源に占める割合で、15%が警戒ラインとされています。今後とも、事業の緊急度、必要度の高いものを選択し、効率的な事業の推進を図っていきます。

起債制限比率

地方債(長期の借金)の許可制限に係る指標で、13%以下が財政の健全性を示す数字です。公債費比率と違うのは、借金の償還元金と利子に対して地方交付税で措置されている額を除いて算定している点で、起債制限比率のほうが財政の実態をより表しています。

以上の数字から見て、国から交付される地方交付税の削減により一般財源(町が自由に使えるお金)が減少し、町民の皆さんのニーズにあわせた施策を進める事が困難になってきていますが、行財政改革の推進を図り、「最小の経費で最大の効果」を念頭に、更なる経費の見直し、優先順位の検討などを進めてまいります。